

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1298700103		
法人名	社会福祉法人希望会		
事業所名	グループホーム第2希望の里		
所在地	千葉県匝瑳市栢田8645-2		
自己評価作成日	令和4年7月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	令和4年7月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

匝瑳市の運営する訪問看護ステーションと医療連携し365日24時間連絡対応体制を整えている。薬局と連携し、薬剤師による服薬管理や薬の作用副作用の説明や随時の職員への助言をして頂いている。歯科医院と連携し、毎月の訪問診療、職員への口腔ケアの説明、助言をして頂いている。コロナ感染症予防として、地域の行事が全く開催されないで、施設周辺をお散歩したり、ドライブをしたりしている。ドライブ可能なご家族様には、ご本人様とご家族様でドライブ外出をして頂いている。ご家族様とは玄関先にて対面の面会を可能としている。市内の医師に来て頂き、希望する利用者様に施設内にてコロナワクチンの接種を実施している。匝瑳市介護保険連絡会に加入して、他の法人と連絡相談をしている。尚、希望会統括施設長が、令和3年度の匝瑳市介護保険連絡会の施設部会の会長をしました。地域の様々な施設と連携がとれるよう心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設1年目の施設であるが、隣接の同法人運営のケアハウスやグループホームは長年に渡り、地域で事業展開しており、地域に根差した施設運営を目指している。医療機関・訪問看護ステーション・調剤薬局とは関係が密になっており、家族への説明・日ごろのアドバイス・緊急時の協力等、入居者の安全・安心に配慮した連携体制を整えている。また、市とは運営推進会議や匝瑳市介護保険事業所連絡会等を通じて、意見・情報交換を行う等、共に地域の問題可決向け協力体制を構築している。現在、日々の生活においてはコロナ禍の為、活動に制限はあるものの、隣接のケアハウスの敷地の活用や地域のチューリップ祭りに参加する等、入居者の外出機会を失わないよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関に掲示。	理念においては玄関に掲示していると共に、パンフレット等にも記載し、職員や外部に周知を図っている。定期的に会議や研修等で理念の説明を行い、職員への理解促進に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流ですが、3年度はコロナ予防のため地域の行事はなく、小学生との交流会もなく、独自の行事も中止しました。	コロナ禍における制限により、地域との交流機会は中止となっているが、運営推進会議や日ごろの連絡を活用して地域とのつながりが途切れないよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民から相談があると、相談対応実施。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者には、意見をお伺いしてサービス向上に努めています。	運営推進会議は、年6回開催しており、市職員・民生委員・家族・職員等が参加している。会議では、活動報告や意見・情報を行っていると共に、身体拘束排除の委員会も兼ねており、適切な施設運営につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話やメールや会議などで随時、相談や意見交換を実施。	日ごろから市に対して連絡・相談等を行っており、連携を図っている。運営推進会議や市の介護保険事業所連絡会等を活用し、市と意見交換をする機会を設けている。現在、コロナ禍の為、市とは電話・メール・文書を活用し、情報交換を密に行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を実施。	身体拘束排除・虐待防止に向けた研修を実施し、職員への理解促進に努めている。また、職員会議で支援方法を検討する際、適切な支援方法であるかを確認するよう努めている。運営推進会議を活用し、外部からの意見も参考にしている。	

【千葉県】グループホーム第2希望の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修を実施。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を実施。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容を丁寧に説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様のご意見や感想を発する事ができるように、施設は、月1回、お手紙にて受診内容や活動内容を報告してご家族様が心身状況を把握できるよう努めています。	家族の訪問時や電話連絡時に意見等を確認している。また、運営推進会議時にアンケート調査を実施し、家族の満足度の把握に努めている。挙げた意見においては、会議等で検討を行い、適切な改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員の意見を否定しないよう心掛けています。	定期的に職員会議を開催し、職員からの意見を把握するように努めている。また、毎月研修を実施しており、適切な職員育成を行っている。不定期にユニット間の人事異動を行い、職員の間人間関係に配慮した工夫を行っている。	開設まもないこともあり、職員の技術・連携等の不足により、活動の制限や職員の不安に繋がっている。職員の現在のレベルを分析した上で介護技術やケースに応じた対応等の研修を実施し、職員の技術向上及び自信につなげる工夫を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休を勤務表に反映することで、プライベートな用事のある日に仕事を入れないようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得者には、受験対策研修の往復の交通費を施設が負担しています。		

【千葉県】グループホーム第2希望の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	匝瑳市介護保険連絡会に参加。連絡会の中の施設部会で部会長を3年度は1年間行う。4年度は連絡会の本部の副部会長を行う。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	在宅のケアマネジャーやソーシャルワーカーから情報を得ています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からもお話を入居前にお伺いしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスの、訪問看護ステーションや訪問診療のクリニックや訪問歯科クリニックや薬局や福祉用具専門相談員と連携しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の様子を見つつ、適時、声掛けしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、毎月、手紙で、受診内容や活動内容を報告しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ予防しつつ、玄関先では対面での面接を可としています。ご家族とのドライブや外食を可としています。	家族や知人との関係継続に配慮し、面会については、ルールを設けてできる限り希望に沿うよう実施している。また、感染症対策を十分に行った上で地域行事参加や家族との外食機会を確保する等、馴染みの習慣継続や家族関係に配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲のよい利用者同士が話しやすいように環境づくりをしています。		

【千葉県】グループホーム第2希望の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した後も、在宅のケアマネジャーやご家族様より連絡があった際は、随時、相談対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時などに本人に意向をお伺いしています。	契約時に本人・家族から意向・心身の状況・生活歴等を確認し、記録している。職員会議にて意見・情報交換を行い、入居者の支援方法の周知及び情報の共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅のケアマネジャーやソーシャルワーカーから情報を得ています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様子観察を24時間行い、訪問看護ステーションが訪問時に気づいたことも、随時、看護師からお伺いしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医には定期的に近況報告をしています。訪問看護ステーションにも定期的に近況報告をしています。歯科医師や薬剤師にも定期的に近況報告をしています。	本人及び家族の意向を基に、計画作成担当者が介護計画の作成を行っている。また、医師・看護師・薬剤師等の意見も確認し、適切な介護計画の作成に努めている。定期的に介護計画の評価を行い、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。	計画作成後に職員に対して、情報共有を行うことにより、入居者のニーズの理解・統一した支援の実施・新たな気付き等につなげていただくことを望みます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、夜間日誌は一目でわかりやすい書式としています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望する利用者には、携帯の使用を可能としており、ご家族様等との会話を会わなくても楽しめるよう支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ予防しつつ、玄関先では、友人や親せきとの対面での面会も可としています。		

【千葉県】グループホーム第2希望の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	随時、異変があった時は主治医や看護師に相談して、必要時は予定外の受診対応もしています。	内科医・歯科医の往診を実施しており、適切な医療が受けられるよう支援している。また、訪問看護・居宅療養指導を活用し、健康管理・服薬管理・医療面における相談や対応等も行なわれており、入居者や家族の安心に繋がっている。受診状況や看護師・薬剤師の意見は個別の記録に残しており、介護計画作成時に活用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	365日24時間訪問看護ステーションと医療連携体制を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、ソーシャルワーカー、ドクターと連携して、必要時は随時、ご家族様に報告連絡相談をしております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化についての説明もしています。	契約時・必要時に重度化や終末期における施設方針等を説明の上、契約書を交わしている。意向を確認したうえで、医師・看護師等と意見交換を行い、出来る限り希望に沿った支援が行えるよう体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命士を招いた救命講習は、希望会は年1回実施していますが、3年度はコロナ予防のため実施しませんでした。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施しています。	定期的に消防機器の点検及び避難訓練を実施しており、災害対策を講じている。隣接のケアハウスとは緊急時・非常災害時において、迅速かつ適切な対応ができるよう連携体制を構築している。	

【千葉県】グループホーム第2希望の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室には、プライベートな私物のもちこみをすすめています。	個人情報保護・プライバシー保護・高齢者の尊厳に関する研修を実施し、職員への理解促進を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が予定外の受診を希望された場合も、柔軟に対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お昼寝、おやつ、食事など希望に沿った対応をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪、はみがき、洗顔など本人のペースを尊重しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節のメニューなど食が楽しめるよう心掛けています。	献立作成及び食材の配送を業者に委託しており、栄養士による栄養バランスに配慮した食事提供がなされている。季節や行事に合わせた特別食も提供しており、食に対する楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量、排尿量、排便など必要な情報を毎週、訪問看護ステーションに報告して、食事や水分の確保の支援を心掛けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師が毎月往診し、医療処置、職員への助言、指示をして下さいます。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	希望者には施設のポータブルトイレを貸与しています。	個々の排泄状況を記録していると共に、必要に応じて、医師・看護師に相談する等、適切な排泄支援を行っている。身体状況や希望に応じて居室にポータブルトイレを設置する事が可能となっており、入居者に合わせた排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取、服薬の調整など、訪問看護ステーションに随時、報告連絡相談をして、便秘対応をしています。		

【千葉県】グループホーム第2希望の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	グループホームには珍しく、ストレッチャー特殊浴槽を用意しています。一人用浴槽の2つ用意しています。	機械浴槽を設置しており、入居者の身体状況に応じて、適切な入浴機会が確保できるように配慮している。また、声掛けやタイミングを工夫する等、入居者の尊厳に配慮した入浴支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	福祉用具専門相談員と随時相談をして、ベッドやマットなど適した寝台環境作りに努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師には、毎週、報告連絡相談をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設周辺のお散歩をしたり、ドライブをしたり、ご家族とのドライブや外食を可とすることで、楽しみのある生活づくりに努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ予防のため外出行事は控えていますが、ご家族とのドライブや外食は可としています。	コロナ禍において制限はあるものの隣接のケアハウスの敷地等を活用し、安全対策を講じながら外での楽しみを支援している。外出の企画については、感染対策を職員間で話し合いを行い、チューリップ祭り等の地域行事への参加に向け検討する等、入居者の外出機会の確保に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な範囲で自己管理して頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には携帯電話にて、ご家族様等との会話を、会えなくても楽しめるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物を作る際は自然を感じられる建築を意識しました。施設内はウッド調であたたかみのある内装としました。照明も居心地よいものを設置しています。	施設内は全面バリアフリーで、廊下やトイレ等は介助スペースが確保されている。また、日当たりが良く、自然の景色や木材の温かみを感じる内装にする等の工夫をしており、入居者が落ち着いて過ごせる環境整備がなされている。今回、コロナ禍での支援は建物の構造を生かしながら入居者同士の感染症対策に取り組んでいる。	

【千葉県】グループホーム第2希望の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う同士がいっしょの席になるように、食事の席などは配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	プライベートな私物を持参することを可としています。	入居者・家族の希望に応じて、馴染みのものを自由に持ち込むことが可能となっており、居心地よく生活できる環境整備を行っている。日中の活動は自由となっており、入居者のプライベート空間の確保がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人ができることは床清掃や軽作業などして頂いております。		